

史跡

泊り台場跡(油谷)

台場とは、幕末に異国船来襲に備えて構築した防塁で、ここに大砲を備え付けていました。当時、町内には、当所のほか久津の黒崎、平坊のらんとこの鼻、大浦の羅漢山の四ヶ所にありましたが、現存するのはここだけです。高さ一・七m余、壁の厚さ一・五m余、長さ地面部五m余りの石の防塁が二つあります。構築年代は、この近くの井上山と川尻岬に天保十二年(一八四一)遠見番所が設置され、嘉永二年(一八四八)に吉田松陰がここを巡検しているの、天保十二年から嘉永二年の間と思われます。



南方古墳群(南方)

この古墳群は、向津具八幡宮の裏山標高五十五mの地点に三基存在し、共に円墳で六世紀後半の後期古墳です。墳丘は、直径約十一m、地表の高さ一・五mで中央部の地山を下に深く掘り下げて墓壇を作り、小さな石を積み重ねながら粘土で固めて石室が形成されています。



天然記念物

西光寺の椎ノ木巨樹群(上り野)

西光寺参道の西側に、椎ノ木巨樹十三本が群生しています。椎ノ木はブナ科の常緑樹で、本州南西部・四国・九州に分布し、韓国の済州島にも分布しています。西光寺の椎ノ木巨樹群の樹齢は不明ですが、目通り幹周は五mにも達しており、高さ約二十mの巨樹の群生は見事です。

久原横臥褶曲構造(田久道)

県道三五八号線から久原漁港への道を五十m下った所の右壁に見られます。岩質は、砂岩・頁岩の互層で、見事な横臥褶曲構造を示しています。この構造は、第三紀層の海中スランピング(一種の地すべり)によって、まだ充分に固まりきっていない地層がおし上げられ、横臥褶曲状に形成されたものです。それが造山運動により陸上化したもので、これだけはつきり判明できる横臥褶曲は珍しく貴重なものです。



名勝及び天然記念物

立石観音(西立石)

立石漁港入口の西側に、日本海の荒波に侵蝕されてそそり立つ高さ約四一mの沖の島と高さ約二〇mの地の島と呼ばれる二つの岩島があります。地の島の頂上に観音を祀る祠があると、ここから立石観音と呼ばれ、立石の地名の由来にもなっています。



建造物

長安寺跡自然石板碑一号・二号(上り野)

石板碑一号：砂岩の自然石で、上方は三角形にとがっています。中央部には三つの月輪を画き、その中に釈迦三尊の梵字が刻まれており、製作は、嘉暦二年(一三二七)の鎌倉末期で山口県下では鎌倉期の板碑は稀少です。



彫刻

木造阿弥陀如来立像(上り野)

長安寺跡の堂宇に安置されており、像高九二cm、椀材の一木彫です。製作年代は、藤原時代のものであるといわれています。

